

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

もっと“稼げる”組織を作るための基礎

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【トップがいかに頑張っても…】

たとえば、国の“トップ外交”のように、経営者が単独で“事業チャンス”を拡大しても、それに続く従業員の意識や技能が不足したり、組織としての対応に問題があったりすると、チャンスが成果につなげなくなります。

【すべきことさえできなければ…】

それどころか、社内の現場が“すべきことをしていない”時には、いつの間にか“関係先の信用”を害し、取引や顧客自体を失ってしまうこともあり得るでしょう。

競争激化の下では、今“すべきことを着実に達成する”組織作りが、マネジメントの最重要課題の1つに躍り出ていると言えそうなのです。

【まずは現状レベルで取り組むべきこと】

しかも、組織力を一気に飛躍させる前に、まず“すべきことを、現状レベルの範囲内で着実に達成する”ことに焦点を絞るなら、特別なことを強いるわけではないため、従業員にとっても“当り前の課題”として、位置付けやすいものになるはずです。

【機運の盛り上がりが見える成果への道】

そして、社内に“当り前のことを当り前に達成しよう”という機運を盛り上げることができれば、更なるレベルアップに取り組む準備もできたと言えるかも知れないのです。

逆に“当り前のことを着実に実行できない”状態の放置は、競争激化の下で、自社をより厳しい状況に追い込む要因になりかねません。

【特に“従業員意識”が微妙に変化の中で…】

特に“働き方改革”等で、従業員の“会社に対する意識”が微妙に変化し始めた昨今、会社に課せられる制限や処遇の改善とともに、従業員にも“生産性の高い働き方”を求めるべき状況にあると言えそうなのです。

収入を増やさなければ、処遇改善は絵に描いた餅に終わるからです。

【マネジメント・レポートを差し上げます！】

では今、何から取り組めばよいのでしょうか。そんな疑問に答える1つの事例があります。

その“事例レポート”は有料定期購読希望者にお渡しいたしますので、ぜひ、ご一報ください。



チャンスを見逃さず、ピンチにも簡単に負けてしまわない“組織力”は、どこから生じるのでしょうか。ある経営者の会合で、そんな意見交換が行われたことがありました。

その中で“注目”を集めたのは、成果を着実に獲得するための組織力は、特殊な工夫より、“なすべきことを確実に達成させる”ことにあるという見解だったそうです。しかも、その“達成促進法”には、想像以上の“即効性”がありそうなのです。その詳細は…。

中堅中小企業の皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぷりめんとニュース』に、ご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>